



「排泄ケアお役立ち情報をご案内中」

光洋

検索

<http://www.koyo.jp>



徹底すべきは正しい手洗い！ ～本当に正しい方法、知っていますか？～

感染症にご注意を！

暦の上では立秋が過ぎ、秋が始まっていますが、まだまだ暑い日が続きます。今年の夏は特に酷暑で、毎日のように熱中症対策のニュースが流れていましたね。空気が乾燥し、感染症が流行る前に今一度感染予防のおさらいをしておきましょう。

まず、感染予防の対策としてマスクの着用や手洗い・うがいは一般的です。その中で、特に菌が多く付着し、感染拡大につながりやすい部分が「手」です。ですから、手洗いというのは非常に重要な感染予防策となります。

手洗いは「日常的手洗い」と「衛生的手洗い」の2つに分けられますが、「日常的手洗い」は、帰宅後やトイレ後に行う、いわば日常生活の中の手洗いを指します。「衛生的手洗い」とは、病院や高齢者施設、食品を扱う場合等、除菌や殺菌を目的とした手洗いのことを指します。この記事を読んでくださっている方々は、特に「衛生的手洗い」の実施回数が多いのではないのでしょうか。

正しい手指消毒の方法を知っていますか？

厚生労働省のマニュアルでは、「1ケア1手洗い」が基本とされていますが、忙しい介護現場では石鹸と流水での30秒以上の手洗いを患者・利用者ごとに実施していくことは時間的にも、手荒れのリスクを考えると負担が大きく、目に見える汚れが付着していない場合は、速乾性手指消毒剤を使用することが多いのではないのでしょうか。手洗いの方法はよくシンクまわりなどに掲示してあるのを見かけますが、速乾性手指消毒剤の正しい方法をご存知でしょうか。次の写真を参考に実施をしてみてください。施設や病院のお部屋の前に貼っておくと、面会に来られた方々にも周知できて便利です。

正しい消毒法



株式会社アルボース様 ホームページ「衛生だより」より抜粋

手荒れに注意！！

感染予防には手洗いが重要だと申し上げましたが、中には肌がデリケートで手洗いによって手荒れを起こしてしまう方も少なくないのが現状です。手荒れがひどい場合、ささくれや傷口から感染したり、MRSAが棲み付くこともあります。手荒れがある方は先に治すことを優先します。速乾性手指消毒剤には脱脂作用がある

ので、できれば保湿成分の配合されている手指消毒剤の使用をおすすめします。

手指衛生法には「流水のみの手洗い」「石鹸と流水の手洗い」「速乾性手指消毒剤の使用」の3つがあり「速乾性手指消毒剤」が最も推奨されている手指衛生法です。汚れの有無や、手荒れの具合などから最も適した手洗いを実施し、感染症から自身や患者・利用者を守りましょう。また、普段からハンドケアをするのも大切です。業務上、どうしても手の皮脂が失われやすいため、それを補うためのケアも積極的に行いましょう。

ケア・コンシェルジュのおすすめ

私たちケア・コンシェルジュはおむつ交換に立会う際、株式会社アルボース様のアルボナーズジェルを使っています。保湿剤配合なので使用後もサラサラ！手荒れを起こしやすいうちでも安心して使えるのでおすすめです！



「アルボナーズジェル」

- ノンエンベロープウイルスにも効果があります。
- 手肌と同じ弱酸性です。
- 4種類の保湿剤を配合しています。
- べたつきが少なくサラッとしています。
- ジェルなので液が飛散しづらくなっています。

お問い合わせ

株式会社 アルボース

<http://www.arbos.co.jp>

オンリーワンパンツ前後フリーに消臭機能をプラス！より使いやすくなりました！



- 「きれいエア」消臭加工をプラス！
全面通気消臭加工バックシートで 空気は通してニオイはキャッチ！
吸収体の消臭ポリマーとの2重のガード！
- 「前後フリー」 ● 「ボクサータイプ」 ● 「もちあげギャザー」
- 「やわらかのびのびウエスト」



特定医療法人社団鵬友会 横浜ほうゆう病院 様

「“その人らしさ”を大切に」 を合言葉にして…

横浜市旭区の西部に位置する、緑に囲まれた小高い丘の上に建つ「横浜ほうゆう病院」は、平成13年4月に開設された認知症患者専門の精神科病院です。認知症患者を専門とする精神科病院は全国でも数が少なく、横浜市内では横浜ほうゆう病院1院のみ。

病棟では看護師、ケアワーカーの他、作業療法士、精神保健福祉士も常勤職員として配置され、1つのチームとして活動しています。

このように、病棟に作業療法士や精神保健福祉士が常勤職員として配置されているのは非常に珍しいことですが、そこには横浜ほうゆう病院ならではのこだわりがあります。

患者様に寄り添い、温かい心で一人一人に愛情を注ぐ横浜ほうゆう病院のケアの根底にある“その人らしさ”について、日野院長と原科看護部長にお話しをお伺いしました。

日野院長と原科看護部長との対談

一日野先生は、認知症の方と関わる上で「その人となりを知ること」が最も重要であるとおっしゃいます。その人を知るといのは具体的にどのようなことなのでしょう。

日野院長「病気の特徴もありますが、その人の性格や従事してきた仕事、今までの生活などによって、見られる行動・心理症状は一人一人違います。だからこそ、その人そのものを知る必要があります。ケアをしっかりと行っていくことができれば、落ち着いた生活を取り戻すことができます。そして、ケアする側がその人を受け入れ、ケアをしていきます。」

原科看護部長「ある人にやって良かったことが他の人にとって良いとは限りません。それぞれの認知症を理解しないと。」

—それぞれの認知症を理解するにはスタッフの方々への教育も必要ですが、横浜ほうゆう病院ではどのような教育体制をとられているのですか？

原科看護部長「看護部では、大きく3段階に分けた教育体制をとっています。1段階目は全スタッフを対象とした集合研修、2段階目は看護部のスタッフを対象とした集合教育と各部署での分散教育、3段階目は各自の自己実現や専門性の追求で、広く院外の教育研修・研究会・学会にスタッフを派遣しています。日野先生は1段階目の集合研修で、認知症の基礎について指導をなさっていますが、研修よりも先生と一緒にケアに携わることで身につくものの方が多い。だから皆、先生がなさる患者様への対応をしっかりと見ています。」
現場で日野院長と一緒に患者様に関わると、講義を聴くよりも多くを学ぶことができるのだとおっしゃいます。

—日野院長はスタッフの方々に「あしなさい、こうしなさい」と教育なさることはないのだそうですね。

原科看護部長「逆に、ダメなことだけを教えます。そういう風に教えるとスタッフは、そこは絶対ダメだと認識するのです。」

日野院長「ひとつは会話を大切にすることです。話半分に聞いてうなずいてはだめです。その人の状態は、話の中でどんな返事が返ってくるかわかります。認知症の方は的確に自分の状態を話してくれるわけではありませんから、会話を通してその日の患者様の気分や状態に気付くことが大事です。」



写真左：日野院長先生・右：原科看護部長

原科看護部長「日野先生は、普段から病棟を回り、入院なさっている患者様一人一人と話をされています。そんな姿を見て、私たちスタッフはいろいろなことを学んでいくのです。」

—日野先生は認知症の方にとって、どのようなケアが一番良いケアであるとお考えでしょうか。

日野院長「一番はやはり環境を変えず、住み慣れた場所でその人らしい生活ができること。今は在宅か施設か、という選択だけだから無理が生じることがあります。当院のデイケアが在宅でできれば一番なのですが。」

原科看護部長「それは素敵ですね、一番良いですね。」

やはりその人らしさを大切にされている日野院長ならではのお話です。

—先日家族会に参加させていただき、ご家族の方から「この病院を選んで本当に良かった。」というお声をお聞きしました。横浜ほうゆう病院では、スタッフの皆さんが日野先生と同じく「その人らしさ」を大切にしたいケアを行っているからこそ、そのようなお声をいただけるのですね。

日野院長「と言いますか、皆きっと患者さんのことが好きなんじゃないかな。」

原科看護部長「忙しいし、毎日業務に流されているところもありますが、患者さんを思う気持ちは皆持っていると思います。介護が好きとか看護が好き、という以前に『患者さんが好き』っていう。」

日野院長「その気持ちがないとこの仕事はできないですね。」

病院長 日野 博昭 先生 プロフィール

1991年3月 山形大学医学部卒業

1991年 横浜市立大学医学部附属病院

2004年 横浜ほうゆう病院

2011年 同院 病院長

現在に至る。

【専門分野】

精神科・精神保健指定医

【所属学会】

日本老年精神医学会専門医・指導医／日本認知症学会専門医・指導医

日本精神神経学会専門医・指導医

看護部長 原科 美津枝 様 プロフィール

1979年4月 神奈川県立こども医療センター入職

2005年4月 医療法人社団 鵬友会 横浜ほうゆう病院入職

2009年 日本認知症ケア学会 認知症ケア専門士取得

2016年4月 横浜ほうゆう病院看護部長就任

現在に至る。

両親の介護経験と横浜ほうゆう病院で培った認知症のケア・対応について年間を通じて講義活動も行っている。